

# 十字路

ようやく物価が上がってきた日本では、次はそれに負けない賃上げが必要といわれている。実質所得が拡大すれば、景気にもプラスに作用し、物価と所得の好循環が始まるというロジックだ。

一方、米国では物価上昇を上回る賃上げが、物価と賃金のスパイラルの上昇をもたらすことが懸念されている。米連邦準備理事会（FRB）が、利上げのペースを緩めても、引き締め姿勢を崩していないのはこのためだ。

今起きている物価上昇は日米とも川上の原材料価格の高騰に端を発している。米国では賃金上昇も加わりスパイラルの上昇が起きてしまった。賃金上昇が抑えられてきた日本では、春闘の賃上げに期待するとしても、昨年の物価上昇の後追いであり、今年も物価上昇が続くとすると、物価上昇に負けない賃上げというのは現実には難しい。

## 「物価に負けぬ賃上げ」の危うさ

仮に、物価上昇に負けない賃上げを行ったとして、そのコストを利益圧縮で吸収できる企業は限られる。価格に転嫁されれば、米国のように物価と賃金のスパイラルが起ることになる。

持続的な賃上げは、競争力に裏打ちされた収益力が必須だ。生産性の向上を伴った賃上げは、インフレをもたらす

ことなく実質所得を増やす。逆に、生産性が高まらないまま賃上げを行えば、さらなる物価上昇として跳ね返る。

経済が成長すれば、所得の増加が、新たな需要を拡大させて経済成長力が増す。これが好循環であり、そこに物価上昇を絡ませる必要はない。

インフレが想定以上に進んだならば、まず物価を落ち着かせることが重要だ。すでに起きてしまったインフレによる実質所得の減少に対して賃上げが有効だとしても、「物価上昇に負けない賃上げ」というフレーズが独り歩きすることには危うさが漂う。

（三菱UFJリサーチ&コンサルティング）

研究主幹 鈴木 明彦